

【図3 累積感染者数等のデータ】

都道府県	累積 感染者数	1週間以内 累積感染者数	2週間以内 累積感染者数	3週間以内 累積感染者数	人口10万対 発生数 (累積)	人口10万対 死亡数 (累積)
北海道	823	222	416	569	15.7	0.8
青森	26	4	4	4	2.1	0.0
岩手	0	0	0	0	0.0	0.0
宮城	88	3	5	43	3.8	0.0
秋田	16	0	0	3	1.7	0.0
山形	68	2	8	32	6.3	0.0
福島	75	7	15	38	4.1	0.0
茨城	165	7	30	72	5.8	0.3
栃木	54	2	11	24	2.8	0.0
群馬	146	6	26	69	7.5	0.8
埼玉	878	93	264	525	12.0	0.5
千葉	823	45	180	412	13.2	0.5
東京	4491	641	1503	323	10	0
神奈川	1060	118	307	549	11.5	0.4
新潟	77	12	21	36	3.5	0.0
富山	209	36	120	188	20.0	0.9
石川	260	36	87	156	22.9	0
福井	122	2	16	36	15.9	0
山梨	55	3	6	25	6.8	0.0
長野	69	3	24	43	3.4	0.0
岐阜	150	1	10	56	7.6	0.3
静岡	73	11	23	35	2.0	0.0
愛知	491	15	92	167	6.5	0.5
三重	45	0	10	28	2.5	0.1
滋賀	96	2	26	58	6.8	0.1
京都	328	38	86	147	12.7	0.4
大阪	1658	181	494	891	18.8	0.5
兵庫	654	35	149	296	12.0	0.5
奈良	86	9	26	47	6.5	0.1
和歌山	62	5	17	24	6.7	0.2
鳥取	3	0	0	2	0.5	0.0
島根	23	6	8	17	3.4	0.0
岡山	23	2	5	9	1.2	0.0
広島	161	15	31	131	5.7	0.1
山口	34	3	4	15	2.5	0.0
徳島	5	0	2	2	0.7	0.1
香川	28	0	4	24	2.9	0.0
愛媛	47	0	3	17	3.5	0.2
高知	74	2	10	20	10.6	0.4
福岡	648	47	151	322	12.7	0.5
佐賀	42	6	26	32	5.2	0.0
長崎	17	0	0	3	1.3	0.1
熊本	47	2	12	29	2.7	0.1
大分	60	0	6	18	5.3	0.1
宮崎	17	0	0	0	1.6	0.0
鹿児島	10	0	3	6	0.6	0.0
沖縄	142	8	32	94	9.8	0.3

※感染者数は、5月3日時点の報告日ベース

※死亡数は、5月3日時点で陽性者との密接な接触が終了した総計327名のほか、各都道府県のHPで確認できた数値を計上。

■ 緊急事態宣言(特定警戒都道府県)

東京・大阪等7都府県

4/7

5/6

30日間

北海道等6道府県

4/16

5/15

21日間

+9日間

※期間は、先行都府県に比べ、9日間短い。

■ 休業要請

東京

4/11

5/6

26日間

北海道

4/20

5/15

17日間

+9日間

※期間は、先行した東京に比べ、9日間短い。

道民の皆様へ

令和2年5月4日

＜外出自粛、休止・休業の引き続きのお願い＞

- ・「新型コロナウイルス感染症」感染拡大防止のための「緊急事態措置」を5月31日まで延長することを基本
- ・「緊急事態措置」による休業要請は、当面、5月15日まで延長
- ・感染が一定範囲に抑えられ、医療提供体制が逼迫している状況が解消された場合には、施設の使用制限等の見直しも検討
- ・「休業協力・感染リスク低減支援金」は、再延長の如何に関わらず、5月15日まで継続してご協力いただくことが支給要件

北海道知事 鈴木 直道

休業要請の対象となった事業者の皆様へ

～事業継続・雇用維持の支援策～
「特にご活用いただきたいもの」

令和2年5月4日

融資

資金繰りのため
融資を受けたい

中小企業総
合振興資金

- ・無利子(当初3年間) 保証料無料
- ・融資枠最大6,000万円
- ・最長5年間元本返済据置
道制度からの借換可

給付金・助成金

売上が
前年比半減

持続化給付金

- ・法人(中小・中堅)200万円
個人事業者 100万円

※ひと月の売上が、前年同月比で50%以上減少

賃金が
払えない

雇用調整
助成金

- ・休業要請を受けた場合、
中小企業の助成率100%化(従前9/10)

※解雇等を行わない場合

個人事業主
資金繰りの一助

特別定額
給付金

- ・1人当たり10万円

北海道知事 鈴木 直道

北海道ソーシャルディスタンシングについて

新型コロナウィルスの感染を防ぎ、大切な人の命を守るために、 できるだけ物理的な距離 (互いに手を伸ばしても届かない距離)を保つ取組

(公共施設、民間施設での取組)

- ①共通スローガン、ロゴの施設内での掲示
- ②床面へのフットプリントの貼付やスペースをとった座席レイアウトなど、お客様間の一定の距離の形成
- ③独自の取組内容を掲載したチラシやポスターの掲示



道では、お店・地域・業界単位の取組を支援します

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人ととの間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
- 遊びにいくなら屋内より屋外を選ぶ。
- 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
- 外出時、屋内にいるときや会話をするときは、症状がなくてもマスクを着用
- 家に帰つたらまず手や顔を洗う。できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）

※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 帰省や旅行はひかえめに。出張はやむを得ない場合に。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに手洗い・手指消毒
- 咳エチケットの徹底
- こまめに換気
- 身体的距離の確保
- 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- 毎朝で体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- それ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狹い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

冠婚葬祭などの親族行事

- 多人数での会食は避けて
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務
- 時差通勤でゆったりと
- オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン
- 名刺交換はオンライン
- 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成予定